

地域再生計画



1 地域再生計画の名称

武豊水辺リニューアルプラン

2 地域再生計画の作成主体の名称

愛知県知多郡武豊町

3 地域再生計画の区域

愛知県知多郡武豊町の全域

4 地域再生計画の目標

(1) 地域特性

武豊町は、知多半島の東側中央部、名古屋市から約 35km はなれた位置にある。臨海部は、重工業を中心とした大企業が進出し工業地帯となっている。交通条件にも比較的恵まれ、町から名古屋市中心部までは、およそ 40 分程度で行くことができ、通勤圏内でもあることから土地区画整理事業や民間による住宅地開発が行われ、急速な都市化が進んでいる。

また、今では知多半島の温かな気候や愛知用水を利用して、稲作・酪農・花(カーネーション)、野菜の栽培などの農業も盛んであるが、昭和 30 年代に愛知用水が完成する以前は、背後地が狭く水利に利用できる大きな河川がないため、毎年のように水不足に悩んでいた。そのため、町内にはため池が多く、住宅地、農用地、ため池、林地などが混在していて、ため池が住民の親水の間となってきた。

南部の富貴地区では、埋立てが行われる以前、海水浴場があり、おとぎばなしの浦島太郎伝説ゆかりの地で史跡が多く残っている。

(2) 地域再生計画の背景と課題

もともと自然豊かな知多半島の中で、住民の自然保全に対する意識は非常に強く、自然の恵みを活用した町づくりが望まれている。臨海部の埋立て工業化により急激な人口流入があり、丘陵部における宅地開発とこれに併せた公共施設・都市基盤の整備を推進してきた結果、地域経済を大きく向上させ都市化が進んだものの、水と緑に囲まれた豊かな自然環境も、今では限られた地域に残るだけとなった。

このように急激な都市化の進行に伴い、残った自然を保全し、水辺を有効活用した町づくりを進めながら、昭和 60 年度より衣浦西部流域下水道に参画

して公共下水道の整備を行ってきた。

しかし、再生計画区域である梨子ノ木地区、六貫山地区は、市街化区域の西に位置し、昭和 50 年代に土地区画整理事業や民間開発によって整備された住宅地であることや東大高地区と富貴地区も町の南部に位置しているために污水处理施設の整備が遅れていて、急増した住宅などからの生活排水が水路を通過して、ため池・河川・海に放流され、それぞれの地区で水質汚濁の問題が生じている。

〔具体的な水質汚濁問題〕

ため池に生活排水が流入し、富栄養化が進んでいる。

夏になるとアオコが異常発生し、悪臭の原因になっている。

水辺が住民の憩いとふれあいの場となるような整備を推進している鹿狩池（梨子ノ木地区）、アサリ池（六貫山地区）、熊野池（東大高地区）において、水質汚濁が親水機能を阻害している。

めだかやドジョウなどがいなくなった。

富貴地区は生活排水の流出により河口付近の水質が悪化し、ヨットハーバーなど海上レジャー基地の環境を阻害している。

富貴地区に伝わるおとぎばなし「浦島太郎」の史跡の環境を阻害している。

（３）地域再生計画の意義

今後、污水处理施設を整備して污水处理人口普及率が向上することにより、それぞれの地区の水質汚濁問題を早急に解決し、きれいな水辺を再生し、本来、水辺のもっている親水空間を住民のふれあいと憩いの場、子供の情緒教育・環境教育の場とすることは、やさしさ、美しさ、さらには豊かな感性といった時代の要求に応える調和のとれた快適な基盤づくりを進めるうえでは不可欠である。また、現在、進めている住民参加による町づくりや民間の資金活用による緑化美化運動の推進を積極的に推進することにも繋がる。

特に梨子ノ木地区では、町が鹿狩池を中心とした親水空間を整備して、ボランティア団体における花いっぱい運動、鹿狩池を含む河川のゴミ拾いが行われ、行政と住民が一体となって、町づくりに取り組んでいる。

また、アサリ池（六貫山地区）及び熊野池（東大高地区）に関しては、池の周辺に図書館、中学校、保育所などの教育文化施設があり、住民の憩いの場、子供の情緒教育・環境教育の場といった機能を有する「水辺の憩いの場」を創造している。

富貴地区では、生活排水が河川や河口付近の海に流入して、環境を阻害している。また、町のキャラクターでもある「ゆめたろう」の魅力を紹介している本町にとって、浦島太郎伝説の発祥地と言われている富貴地区の水辺を再生して地域の活性化を図ることは、町のさらなる発展と観光文化面での町づくりに必要である。

(4) 再生計画の目標

汚水処理人口普及率の向上

現在、60.1%と低い汚水処理人口普及率を5年間で75.0%まで向上させることを目標に、汚水処理施設整備交付金を活用し、公共下水道計画の認可に合わせた下水道整備と個人設置型の浄化槽を積極的に誘導していく。

水質汚濁の改善と解消

未処理放流された生活排水が原因の水質汚濁の問題が改善解消され、それぞれの地区における水辺の再生が実現する。

このように、汚水処理施設整備の推進を図ることにより、美しい水辺の創出と自然豊かな町づくりを進めることになる。また、本町の総合計画や都市計画マスタープランの構想に基づき進める事業と組合せて地域再生計画の目標である「武豊水辺リニューアルプラン」の達成を目指す。

5 目標を達成するために行う事業

5 - 1 全体の概要

汚水処理施設整備交付金を活用して、公共下水道計画の認可に合わせた下水道整備区域の中で水質汚濁など問題のある4地区において、5年間で公共下水道を約34.5km整備すると同時に、下水道計画区域外の住宅が点在していて個別処理を行う事が経済的な区域であって、汚水処理施設の整備自体が遅れている区域を対象として積極的な合併浄化槽の設置を呼びかけ、個人設置型浄化槽25基の設置を誘導する。

また、関連事業として親水施設や散策道などの整備と民間のボランティア団体の活動を推進して、水辺空間の再生と創出を実現する。

5 - 2 法第4章の特別の措置を適用して行う事業

汚水処理施設整備交付金を活用する事業

[事業主体]

愛知県知多郡武豊町

[施設の種類]

公共下水道及び浄化槽(個人設置型)

[事業区域]

公共下水道：梨ノ木地区、六貫山地区、東大高地区、富貴地区
浄化槽(個人設置型)：個別処理を行う事が経済的である区域

[事業期間]

公共下水道：平成 17 年度～21 年度

浄化槽(個人設置型)：平成 17 年度～21 年度

[整備量]

公共下水道：150～800 L=34,520m

浄化槽(個人設置型)：5人槽 25基

なお、5年間で整備する各施設の処理人口は次の通り。

公共下水道：6,380人

浄化槽(個人設置型)：50人

[事業費]

公共下水道：2,991,150千円

(うち、単独 1,093,150千円)

(うち、国費 949,000千円)

浄化槽(個人設置型)：8,850千円

(うち、単独 0千円)

(うち、国費 2,950千円)

合計：3,000,000千円

(うち、単独 1,093,150千円)

(うち、国費 951,950千円)

[公共下水道事業認可の経緯]

当該区域は、平成 17 年 5 月 13 日 17 下水第 74 号にて下水道法事業認可を受けている。

5 - 3 その他の事業

(1) 水辺プラザ整備事業

町事業により鹿狩池(梨子ノ木地区)で、貴重な自然環境を保全すると共に人々が安心して自然とふれあうことが出来る水辺空間を創出し、イベント、地域活動の拠点広場としての場を確保するように、多目的グラウンド、親水施設、散策道などを整備する。

(2) 明るい社会づくり運動

社会福祉向上の一端を担う自主的な民間のボランティア団体が、青少年健全育成・緑化推進・家庭教育推進などの活動を行っている。毎年、水辺クリーンアップ大作戦、河川クリーン大作戦、民間の寄付による植樹祭、家庭教育をテーマにした講演会などを行っている。

(3) 武豊花と緑のまちづくり推進事業

民間のボランティア団体により、町を花と緑でいっぱいにし、ゆとりとやすらぎのある町づくりを進めている。町内十数カ所の花壇の管理や花の無償配布、講演会の開催などを行っている。

6 計画期間

平成17年度～平成21年度

7 目標の達成に係る評価に関する事項

本地域再生計画における污水处理施設整備交付金に関する事業の効率化及びその実施計画の透明性と一層の向上を図るため、事業に対する評価及び完了後、一定期間経過した事業に対する事業評価を検討する。

具体的には、毎年、地域再生計画の進捗状況、整備面積、整備区域内人口、污水处理人口、下水道整備延長、水洗化率、浄化槽設置基数、収支状況を比較して、公共下水道及び浄化槽の各事業の効率性、関連事業の進捗状況を検証する。また、住民モニター制度を活用して各事業の評価や今後の事業のあり方について検討を行うものとする。

8 地域再生計画の実施に関し当該地方公共団体が必要と認める事項

(1) 中部国際空港を核とする知多半島観光再生計画

県及び知多半島内の5市5町と協力して、中部国際空港の開港(平成17年2月)により知多半島に年間1,200万人ともいわれる新しい人の流れが生じ、更に愛知万博の開催(同年3月～9月)により人の流れが加速されることが予想されるため、知多半島各地で住民の観光意識の醸成、観光資源の整備創出、観光振興の環境整備をする。このことにより、新たに地域の受け入れ体制の整備、地域資源の活用、情報の発信により観光客が増加し、観光に関わる事業者などの直接的な経済活動が活性化されるのみでなく、運送業、食品製造業など間接的にも影響があり、様々な業種における雇用の創出が期待される。

(2) うらしま伝説交流事業

町のシンボルマークである「ゆめたろう」の推進と富貴地区に伝わる浦島太郎の史跡めぐりの紹介や関連の講演会開催を始め、全国の浦島伝説伝承地によるサミットの開催をして「思いやりの心」による町づくりの輪を全国に広げる運動を進めている。